

四日市大学 ピックアップ・トピックス

2010年10月1日発行 vol. 11

【発行】四日市大学 入試広報室

〒512-8512

三重県四日市市萱生町 1200

電話 059-365-6711

FAX 059-365-6630

URL <http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

E-mail nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

・伊勢湾海洋調査実習・勢水丸
・経営学特殊講義

P.1

・オーストラリア環境研修
・エネルギー施設見学

P.2

・サマースクール
・Mie こどもエコフェアに参加
・総合政策学部が四日市祭りに参加

P.3

・ごみゼロウォーク・エコフェア
・サッカー部天皇杯出場
・ソフトテニス部、西日本学生大学対抗戦大会で初のベスト8 進出
・フリーペーパーを学生が発行

P.4

伊勢湾海洋調査実習・勢水丸

昨年度に引き続き、四日市大学は三重大学生物資源学部の練習船勢水丸を共同利用した伊勢湾海洋調査実習を行った。これは、本格的な海洋調査を学生に体験させたいという本学環境情報学部の希望と、大学間連携・地域貢献活動を広げる三重大学の施設の拠点化の方針が一致して実現したもの。

実習は7月22日(木)から24日(土)までの期間(2泊3日)に行われ、環境情報学部生19名、引率教員2名(高橋教授、千葉教授)が乗船した。今年は単独航海ということで、三重大学からの参加はなく、四日市大学の教員と学生だけが勢水丸に乗り込み、勢水丸の乗組員の方々から支援を受けながら実習を進めた。

松阪港(勢水丸の母港)を出港後、伊勢湾を東向きに横断的に走行し、翌日は名古屋港沖から南向きに縦断的に走行して、その間に流動・水質・底質・生物(プランクトン、ベントス)を詳しく調査した。伊勢湾の中央部は非常に大きな範囲で水深4~5m以深が貧酸素化していることが観測でわかり、学生達は強い印象を受けた様子だった。

内田船長から「三重大生と同じように指導する」との挨拶をいただき、その後、乗組員の方々から、的確で丁寧で厳しい指導をしていただいた。

四日市大学生達は、勢水丸の最新鋭の機器を用いた海洋観測を体験するとともに、朝のラジオ体操、船内清掃、食事当番、観測機器の清掃などの練習船としての活動もでき、たいへん貴重な体験となった。実習に参加した学生達からは、「とても勉強になった。」「大変充実していた。」「非常に楽しかった。」との声が聞かれた。



経営学特殊講義

経済学部では、各産業界の経営者などを招き、その時々で話題になっているテーマやトピックとしての経営方針・哲学などを語っていただく「経営学特殊講義」を開講している。講師のこれまでに経験した豊富な体験をもとに生きた経営学を学ぶことができる。7月7日(水)、四日市で豆腐ビジネスの総合コンサルタントをされているミナミ産業から南川勤社長を招いた。南川社長は、国際競争力を強化するために、他業種との連携に着目し、地元の特産物である万古焼を用い、手ごろに食卓で出来たて豆腐を味わえる万古鍋を共同開発し、国内にとどまらず海外にも輸出していることなど紹介した。また、地域を活性化させるためには、地産地消だけではこれから先は無理があり、常に、日本だけでなく世界のマーケットにも目をむけ、絶えずアイデアを出していく大切さを説いた。

今年度の経営学特殊講義は、来年1月まで続く予定。

オーストラリア環境研修

第6回目となる四日市大学海外環境スクールをオーストラリアで実施。8月8日(日)に成田空港を出発し、スクールを9日から14日間にわたり行い、23日(月)早朝に成田空港経由で名古屋駅に帰着した。当大学からの参加学生は10名。授業・講義は全て90分で、英語の授業が6回、環境管理に関する専門の講義が6回、ゴミ処理施設や工場見学、自然環境観察等学外見学が8回、環境保全地区でのボランティア活動が2日間という研修内容。

今回のスクールは、クィーンズランド大学 Institute of Continuing & TESOL Education と QH インターナショナル (カンタス航空の旅行社) が組んだパッケージツアーで、過去のスクールとは多少内容が異なる。

今回初めて現地での宿泊を全てホームステイで行った。学生たちは、水事情の違いから4分しかシャワーが使えないなど、日本との生活や文化の違いに戸惑いながら外国生活を体験したが、これもスクールの大きな成果となった。専門の講義と多くの見学は、Cleaner Production という省資源・省エネルギーを徹底的に行うことにより産業活動の経済性をも追及するという考え方を軸に組まれている。豪州の取り組みと日本の取り組みを学生自身が比較できる良い機会になった。



エネルギー施設見学

エネルギー問題への理解を深めるために、環境情報学部では、エネルギー関連施設の見学会を毎年実施している。本年度も中部原子力懇談会三重支部のご協力で、2010年9月2日・3日にわたり見学会を実施した。

初日には名古屋城駐車場の地下に広がる中部電力名城変電所を見学。ここは大学の近くにある川越 LNG 火力発電所から送られてくる電気の変電所で、最新鋭の施設が目立たないように存在していることに学生達は驚いていた。また、午後には、日本最大で世界第4位の発電量410万kWを誇る中部電力碧南火力発電所を見学。広い貯炭場に外国から運ばれてきた石炭が山積みされており、石炭が飛散しないようにフェンスで囲まれている。オーストラリアから来たタンカーから石炭を積み降ろしているところも見学したが、全て自動化されていた。発電所には石炭という汚いイメージはなく、発電所周囲もきれいに植林されており、クリーンだった。

2日目の午前中には核融合科学研究所(岐阜県土岐市)を見学。「地上に太陽を作ろう」というのが目標で、重水素と三重水素を核融合させて中性子とヘリウムに変換し、その際に発生する莫大なエネルギーを取り出して発電することを目指している。現在は、核融合反応が持続するようにプラズマを磁力線の籠のなかに閉じ込める技術の開発が行なわれていた。既に、大型ヘリカルコイルで一億度を越えるプラズマを閉じ込めることに成功したとのこと。最後に岐阜県瑞浪市にある瑞浪超深地層研究所を見学。国の計画では、原子力発電所から出てくる高レベル放射性廃棄物を300mより深い地層に閉じ込めることになっている。そのために必要な科学的な知見を得るための研究を、諸外国と情報交換を行いながらわが国でも行っている。その一つが、この研究所。今回は地下200mまでエレベーターで降りて、横に掘られた坑道で岩盤や珍しい断層を見学。既に400m程度掘った坑道での実験に加えて、地下約1kmを目指して掘削が続けられていた。日常生活ではスイッチを押せば、すぐに使える電気。

今回の見学会では、その電気を作っている巨大な発電所、発電所からの電気の電圧を下げて使えるように大都市の地下にひっそり設置された変電所、我々の必要とする電力の約3割を既に供給している原子力発電所からの廃棄物処理を安全に行うための技術開発の現場を見学できた。電気をめぐる技術や人々の努力は凄いものだと学生達は実感したようだ。



サマースクール

2010年8月9日・10日・17日と3日間、環境研修を実施した。初日干潟調査日は大荒れの天候となり、大雨・洪水警報と雷注意報が発令された。高松干潟に流れ込む朝明川は濁流となり、川の影響を受ける干潟の左岸は水中に没した。そのため、右岸側の干潟で、危険のない範囲の調査を実施したが、高校生は干潟にほとんど出ることができなかった。短時間に生物・水・泥を採取して大学に持ち帰った。二日目には大学の実験棟で、前日採取した水の分析と採取水中のプランクトンの分析を実施し、最終日にそのまとめと発表を行った。少ない資料にも関わらず、参加した高校生はいろいろと工夫をし、立派な発表を行った。

また、2010年8月10日には、メディア関係のサマースクールを実施した。このサマースクールは、毎年、大学の授業の一環として実施しており、メディアコミュニケーション学科の学生が事前に授業の準備を行い、当日は高校生のサポートを行った。今年もたくさんの高校生の方々が参加をしてくれ、大変盛り上がった。高校では体験できないプロ仕様のスタジオで、専門家の指導を受けながら専門の機器を使い、高校生の皆さんは満足した様子であった。最後に、環境情報学部の播磨学部長から修了証を受取った。

Mie こどもエコフェアに参加

7月17・18日に四日大エコ活動(正式名称:四日市大学環境協働活動会議)の学生20名が、四日市環境学習情報センター主催の「Mie こどもエコフェア」に参加した。このイベントは、子どもたちに見る・触れる・作る・考えるなどの体験を通して環境について楽しく学べる機会を提供することを目的としており、今年で10周年目となる。今年の来場者数は2日間で3,950人に達し、非常に盛り上がったイベントになった。

四日大エコ活動の学生達は、次の4種類のミニゲームを自分達で考案・制作して参加。イベント期間中、梅雨明けした夏の日差しが強く、学生達は汗だくになりながらも、子どもたちの純粋な遊び心を受け入れるべく、体を張ってそれぞれのミニゲームを運営した。ちなみに、ミニゲームを成功すると貰える「イモマンシール」は子どもたちに大人気だった。(イモマンは、四日大エコ活動の「ゆる」キャラ。)

この活動の中心となって奮闘した四日大エコ活動委員長の森本恭寿君(環境情報学部3年)は、「子どもたちと触れ合っていると、未来のことを考えさせられた。自分たちが幼い頃を楽しく過ごしたように、いつの時代の子どものも、楽しんで暮らせたら良いと思う。そういう意味で、このようなイベントに参加することは、持続的な環境の大切さを実感できる数少ない機会になっている。四日大エコ活動の立ち上げから1年と少しが経過し、参加メンバーは20人を超えた。メンバーには、環境情報学部の学生から、経済学部の学生、さらには四日市看護医療大学の学生まで幅広く参加している。エコ活動が良い出会いの場になっていることは言うまでもない。何かやりたいと思っている学生、もっと新しい学生生活を満喫したいと思っている学生がいれば、一緒に活動してほしい」とコメントした。

総合政策学部が四日市祭りに参加

2010年7月18日、総合政策学部の学生20名が四日市市のシンボルともなっている大入道の組み立ての手伝いに参加した。総合政策学部の講義・人間と文化は、地元のお祭り、大四日市祭を素材に、保存と伝承に努力する人々の姿とそれを支える地域社会のあり方を学ぶ講義。祭りとは何かという宗教学の講義から始って、大四日市祭の歴史や概要を講義形式で学び、当日の様子は、約1カ月間、地元のケーブルテレビでネット配信された。なお、8月1日の本番では、学生は、大入道、岩戸山、大念仏の3つの出し物に、わかれて参加した。



ごみゼロウォーク・エコフェア

7月31日(土) ごみゼロウォーク・エコフェア in 四日市大学を実施した。この取り組みは、本学の四日大エコ活動(学生主体の環境活動団体)と、三重県四日市農林商工環境事務所の主催によるもので、約100人の方々に参加していただいた。

最初に本学の宗村学長から挨拶があり、その後、3班に分れて大学近傍と山城道路周辺の清掃を行った。その後、環境関連団体によるブースの出演、流しそうめんなどを行った。晴れたり曇ったりの天気だったが、日差しが強過ぎず、ゴミ拾いにはよい天気であった。この模様は、四日市のケーブルテレビと中日新聞の取材を受けた。

サッカー一部天皇杯出場

三重県サッカー選手権の決勝が2010年8月29日、鈴鹿市の県営鈴鹿スポーツガーデンで行われた。近大高専を延長戦の末、1対0で制し、2年ぶり4回目の天皇杯全国サッカー選手権大会に出場を決めた。

なお、前に行われた準決勝では、FC鈴鹿ランポーレ(社会人県1位チーム)に延長戦の末、1対0で勝利している。



ソフトテニス部、西日本学生大学対抗戦大会で初のベスト8進出

6月26日(土)から29日(火)まで愛媛県松山市にて平成22年度西日本学生ソフトテニス大会が開催された。大学対抗戦(団体戦)において、準々決勝まで進出し優勝した強豪同志社大学(4年連続優勝)に惜敗した。ソフトテニス部の新たな歴史が築かれた。



フリーペーパーを学生が発行

環境情報学部の学生2名(村井丈仁さん、立木宏征さん、共に4年生)が環境問題を主題にしたフリーペーパーを自主発刊した。誌名は「COPRU コプル」。2人は日頃から積極的に環境活動に取り組んでおり、ぜひ、少しでも多くの人に環境に興味をもってもらい、自分たちからできる環境活動を広げていこうと今回の発行にいたった。また、「COPRU コプル」という誌名は、名古屋で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)にあわせ、今回のCOP10をこの地方での環境保全のスタートにしようと名づけられた。今回の特集記事は外来種の捕獲後の利用問題に焦点を当てた「ほんとうにおいしい!ブラックバス井のつくりかた」。実際にブラックバス天井を提供し人気を博している、滋賀県の琵琶湖博物館内のレストランを取材し、ブラックバス特有の「臭み」の処理の方法から、井つゆの秘伝まで細かく特集されている。試食後、ブラックバス=「悪者」ではなく、外来種をつれてきた人間の罪の重さを改めて考えさせられたようだ。「COPRU」はB5版12ページ、本学でも配布している。

※ 今までに発行された Pick Up Topics が、ホームページからご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/guidance/09.html>

又は 四日市大学トップ→大学案内→ピックアップ・トピックス